

■ あいさつ

三遠南信住民ネットワーク協議会

代表世話人 田中孝治氏



2005年からサミットの中で住民セッションができ、2巡して住民ネットワーク協議会ができました。そして3年間かけて住民ネットワーク協議会として連携活動をしてきました。このサミットでこれまで3年の活動を整理する形で、特産品の交流、祭り街道と呼んでいるこの地域のDNAとも言える「祭り」による三遠南信の結びつきの活動、新しい動きとして芸術活動やスポーツによる交流も起こってきました。この3つのプロジェクト進めていくことが次の3年に向かっていく活動の目標と考えています。

住民セッションでは、3つのプロジェクトの経過を報告し、その中で何が課題であるか、活動をもっと充実するための解決策、内容の報告より次に向かっていく提案発表をお願いします。3つの報告の後で、それぞれ3つのテーブルに分かれて、参加者のお知恵も借りながら、問題の解決策や、もっとよくなることを話し合っていきたいと思います。

我々は、組織力もお金もありませんが、他の仕事も抱えているので大きなことはできません。その代わり転勤・異動もないからずっと活動をし続けていけます。最近、新しい人（若者）や女性が入ってくれるようになってきました。今日は2時間ほどの短い時間で

すがよろしくお願ひします。



■ 第1部 プロジェクトの現状と課題報告

① 三遠南信「地縁店」展開プロジェクト

報告者：中野 眞氏

(NPO 法人三遠南信アミ)



三遠南信地域のすばらしい農産物・加工品を地域にもっと広くPRして販売していこうという取組みです。三遠南信地域は、天竜川を背骨にして東西南北に広がっています。標高0m～1,000m以上の地域、時間距離は3時間ぐらいでつながっています。三遠南信道路などインフラの整備も進み、時間距離は短くなっている中で、農産物や加工品を地元を広げて買ってもらうことが必要として取り組んでいます。

浜松では平成22年から浜松駅前の商店街「モール街」で軽トラ市が始まりました。そこで毎月1回、三遠南信のものを販売しています。飯田の南信州ここに、売木村、なべくら高原、東栄町のとほへ、設楽町、豊橋市

などから月1回PR販売する機会を作ってきました。そして、「遠江特鮮市場」という店でこの地域の特産品をアンテナショップ的に販売する取組みをしています。

また、三遠南信アミでは3～4年前から売木村の人たちと、浜松の三方原の大根を使って南信州の食文化「凍み大根」を作っています。信州ではたいへん売れるので、浜松には回って来ないのでもっとたくさん作って浜松でも南信州の食文化をPRしていきたいと考えています。

南信州ここだにさんが中心になって南北の交流として、里の（遠州の）みかんと山（南信州）のリンゴを物々交換のように南信州でみかんを、遠州でリンゴを売り合うこともやっています。海の家産物を飯田に運ぶことも南信州ここだにさんは取り組んでいます。

三遠南信のアンテナショップとしては、平成24年から飯田市の「あざれあ」という農産物の直売所をここだにさんが運営されることになったので、そこで遠州や東三河の特産品をアンテナ的に扱っています。東三河では、これから新東名の開通に合わせて新城市が設置する「道の駅」で三遠南信のものを扱ってもらうような働きかけをしています。

課題としては、5つあります。

- ① 自立していくためには稼がないといけない。多品種で少量のモノを運ぶのはなかなかコストがかかり、採算が合わないので、この点をどうしていくかが大きなテーマ。
- ② 作っている側はおいしくてよいものと思っても、これが消費者ニーズに合っているか調査しないとイケない。
- ③ まだすばらしいモノを消費者に届けられていない農産物や加工品の掘り起しもしていかなくてはイケない。
- ④ 新商品の加工品として6次産業化による商品開発も大切になってくる。南信

州の加工品を作る力は実感している。浜松はものづくりのまちと言っても食品のメーカーが少ない。南信州や東三河のメーカーのお願いすることが多い。そんな加工力を持った地域と農家の農産物を連携していくことも大切。

- ⑤ 野菜づくり、果物づくりの名人がたくさんいる。この人たちのノウハウや技術を継承していくことも大切。

今日は、みなさんからの意見や情報をいただいて、連携を深めて「地縁店」のネットワークをもっともっと強固なものにしていきたいと考えています。よろしくお祈りします。

② 三遠南信「祭り街道」連携プロジェクト 報告者：伊東直幸氏（祭り街道の会）



今年は、三遠南信の「祭り街道」を提唱して15周年を迎えました。9月14日に15周年のイベントがあり、遠州の大念仏にも来て盛大な催しことができました。

三遠南信地域は、かつては日本の中から人が行き交い、交流の盛んな地域でありました。こうした賑わいを復活させたいと祭り街道の取組みが始まりました。沿線には国指定の重要無形文化財の祭り（14箇所）があり、今も輝いています。祭り街道があり、国指定だけでなく県指定選択文化財など祭り文化の吹き溜まりの地域であるので、かつてのにぎわいを取り戻したいとして交流を進めている。13年後にはリニアが通り、近く新東名の新城ICができてきます。そのようなことを活かし

ていきたいと考えています。

三遠南信サミットに参加して4年目。協議会では今年は祭り街道の連携という事業を取り上げてもらいました。阿南町から東栄町までのものを新城市まで延長しようという話しが持ち上がりました。

そのことを今年協議会で新城市に祭り街道延長に協力を要請しました。市長や議長にこれから作る「道の駅」もつくるに特産品のコーナーや情報コーナーを設置する要望をしてきました。具体的には、祭り街道マップの作成、道の駅に情報コーナーで祭り文化の発信や特産品を販売するコーナーを設ける話などを行っています。特に、“五平餅”により祭り街道でつなげたらという考えが出てきています。

私たち祭り街道の事業では、祭り街道制定15周年で、前夜祭として1月14日に新野の本物講座・鑑賞会を開催しました。8月14日の盆踊りは、県からの補助金ももらいながら、郷土色ある浴衣を作って、地域の人、帰省客、都会からの人に浴衣を着て楽しんでもらいました。

9月14日に15周年のフェスティバル。3月和合の念仏踊りが重要文化財に昇格し、遠州大念仏、東栄町の花祭りの人たちを集めて、盛大に開催しました。

現在、この151号の祭り街道をさらに遠州祭り街道（152号、257号）につなげる運動が起き始めている。沿線各地域は疲弊しています。祭りが衰退する地域は地域も衰退します、祭りの元気が地域の元気につなげ、交流に話題やソフトを付加し、地域の活性化につなげていきたいと考えています。国がすすめている「地方創生」に手を挙げて、民間でやっていることを支援してもらいたい。

蛇足ですが、下條村では、ローカルヒーロー活性化マンというものを作って、若い人たちが地域にお客を呼び込むよういろいろ取り組んでいます。新野の雪祭りの神様もヒーロー

とは無縁ではなく、遡れば750年ほど前、村人たちがいろいろ考えて、祭りに“神様”を登場させたという気がします。時代ごとにヒーローが存在しますが、子どもから大人も喜ぶものが大事であると思います。

今後、祭り街道をいかに利用し、連携を図るために何をしたらよいかが課題で、この後の分科会で話し合ってもらいたいと思います。

報告者：上嶋裕志氏

（浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会）



遠江のひよんどりとおくないの3つが国指定の無形民俗文化財で、その保存会で協議会を発足しました。そして、同じおくないの祭り6団体で連絡会が構成。相互訪問、民俗芸能サミットもやった。知ってもらうためにガイドブックを作り、舞いの説明をしています。ガイドブックは1部500円で販売し、完売。売上を次の発行の財源として確保してあります。

そもそも浜松市からの働きかけで連絡会を作りました。旧浜松市では無形民俗文化財がありませんでしたが、合併により無形民俗文化財があるまちとなりました。お宝をなんとかしようとなりました。19の団体が集まって連絡会が発足。地域の祭りを結束するためには、いい手段であると考えています。連絡会では、祭りに行ってみてもらうことや年2回の広報誌を発行しています。19団体がそれぞれ特徴ある祭りで、地域が根付いています。歌舞伎、大念仏、おくない、ひよんどりなど。団体が一堂に集まって市全体が無形民俗文化

財の宝庫であることをアピールしていきたいと考えています。

それぞれ文化財指定されている祭りは、1つの指定に複数の祭りを合わせて登録されており、この地域には全国でも珍しい中世の民俗芸能が数多く残されています。

この地域には国・県の選択無形民俗文化財もいくつかあります。祭り街道は、国道151号中心で始まりましたが、東三河にも田楽や鬼祭があります。その鬼祭はいたる所で驚くようなお祭りをやっています。

今後、3つの圏域の連携にもっていくためには、南信州地域をまとめてもらい、東三河地域のまとまりができてくれば、三遠南信の連絡協議会ができ、三遠南信民俗芸能サミットなども行っていけたらと考えています。日本全国から集まってもらえるものになり、地域全体で「世界遺産登録へ」となっていけばよいと思っています。

③ 三遠南信「芸能・スポーツ街道」プロジェクト

報告者：大脇 聡氏（NPO 法人てほへ）



NPO法人てほへの紹介ですが、東栄町の「志多ら」というプロの和太鼓集団が5年前に立ち上げたのがNPO法人てほへであります。今年6月22日の浜松のアクトシティでの公演では、1,000人を超える参加者がありました。ロビーでは住民ネットワーク協議会のパネルや写真の展示を行いました。

てほへは、志多らの公演などの際、奥三河のPR大使として全国の人に奥三河地域を紹介

しています。

「蒼の大地」は、住民ネットワーク協議会でサポートしてもらいまました浜松公演以外に飯田でも豊橋でも公演に協力してもらいました。この後、蒼の大地は豊橋と新城で公演をして終える予定であります。

志多らが根づいて25年くらい経過し、私たちは花祭りを住民の1人として舞いをやっています。蒼の大地は、祭りがいかに地域にとって大事で、住民の力の源になっていることを全国の人に知ってもらうことをコンセプトにしています。祭りをやり続けるのは、何百年も祭りがただあるから守るのではなく、地域にとっての役割、暮らしていくノウハウや思いを伝えていくためのツールと考え、1年に1度やるのが地域を維持するのに大切と感じています。

プロの（芸能）集団が未来に向けて新しい作品として芸能を作っていくことが大事であると考えています。ヒーローなども含め、新しい形に変えていき若い人に伝えることができたらと思っています。古くからのものを受け継ぎながら新しいものを入れる。これが何百年もつながるものになると考えています。そのようなことを考えて、試行錯誤しながら新しい作品と新しい人材につなげていく活動をしています。

この三遠南信には、私たち以外にカネトの合唱、果てぬ村のミナなど新しい文化が生まれています。

これからは、若い人が連携していく大切さに気づくことが大事で、そのきっかけがないと難しいと思います。ただし、自分たちの興行がうまくいかないと生きていけないのも事実です。安定していくとそこに余裕が生まれ、少し考えられます。ただ活動団体は損得勘定だけでは動いていないので、そこをサポートしていただきながら、新しい人材を育てていきたい、子どものうちから種をまいていく活動をしていかないといけないと考えています。

若い人が地域を越えてつながっていくこと、それを伝える活動は大事です。若い人が入りやすい取組みは大切だと思います。

てほへの若い人材の育成として、愛知県の緊急雇用対策で4名雇用して、遊休建物の活用に取り組んでいます。しかし、大切な核心となると伝えるには難しいと思います。のめりこんでやっている学生など頭でわかっている人をリアルに引き込んで、自分で動ける人材にしていくためには、地域に入って経験しないとわからないと実感しました。そのような育成のきっかけづくりは大事であるところの1年で思うようになりました。

自分たちの活動だけでなく、連携の必要性に関してモチベーションを上げていくことが課題。そこに若い人を入れ込んで、育てていくことが課題であると思っています。

やってみたいことの提案は募集していますので、よろしくお願いします。

報告者：三宅淳子氏

(NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと)



新しい連携プロジェクトの1つとして、三遠南信圏域ブランド「三遠南信物語」について提案と情報提供をさせていただきます。先に報告のあった3つのプロジェクトも本事業を活用しながらいろいろな所に発信していけるとと思います。

本事業の圏域ブランド創造のねらいは、地域資源を活用してモノのブランド化と地域イメージのブランド化を図り、発信していくことです。地域資源活用による観光まちづくり

の取組により、いろいろな相乗効果を生み出すことができ、その結果「住んでよし、訪れてよし」の持続可能な地域づくり、地域や経済の活性化が図られると思います。

地域イメージのブランド化のコンセプトとして、わかりやすい呼び名で東三河を「ほの国」、遠州を「いの国」、南信州を「きの国」と3つの国の物語で「三遠南信物語」という新しい形で地域ブランドを構築しようというものです。地域資源を活用した五感に響くブランド化です。言葉の意味としては、南信州は、アルプスの山々の森＝木（き）と神に出会う里・パワースポット＝気（き）、遠州は、天竜川の水の恩恵を受け、水にまつわる伝承が多いことなどから井戸＝井（い）です。

ただし、一般の人にはピンと来ません。何か語っていくきっかけが必要で、いの国の魅力を伝える物として、「いのくに物語」という焼酎を商品化しました。ボトルのラベルに「三遠南信物語」の解説を入れました。この商品は、25日に開催されたしんきんサミットの会場で初売りし、完売しました。

今年度全国商工会連合会の事業採択を受けて、三遠南信地域の観光と・物産の展示販売会と商談会を実施します。NPOでの事業採択は珍しく、商品の販売促進や販路を開拓していくものです。浜松、東京、名古屋で、企業や事業者、商工会・商工会議所、観光協会等と連携しながら実施します。今回報告の連携プロジェクトもこの事業を大いに活用していただければと思います。また、地域住民が参画する仕組みをつくるのが大きなテーマでもあります。本事業を契機として地域力のアップと、三遠南信流域都市圏の創造を目指したいと思います。

■第2部 車座討議／

グループワークショップ

これから3つのプロジェクトに分かれファ

シリテーター（進行役）のもとで、課題解決のための方法や新しい発想、アイデアについて自由活発に話し合います。進行役となるファシリテーターは、三遠南信「地縁店」展開プロジェクトが NPO 法人地域づくりサポートネットの山内秀彦、三遠南信「祭り街道」連携プロジェクトが NPO 法人三遠南信アミの水島加寿代さん、三遠南信「芸能・スポーツ街道」プロジェクトが NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっとの三宅淳子さんが務めます。

（グループに分かれて約 1 時間の話し合い）



グループ報告

- ① 三遠南信「地縁店」展開プロジェクト
報告者：ファシリテーター 山内秀彦
（NPO 法人地域づくりサポートネット）



このグループは、コンパクトな人数で具体的な話し合いになってきました。3つの圏域でのアンテナショップについて話しました。結論から言うと「地縁店」としては、生鮮品ではなく、何か絞り込むことでこの地域に伝わる「五平餅」に絞り込んだ形で展開してい

こうという意見になりました。既に商標登録されている“祭り五平”を売り込んでいく、もの売りではなく、コト売り、あるいは地域売りとして、五平餅で地域を売っていくことが提案されました。祭り街道五平餅として、トッピングや味付けを各地域の特性を出し、新野味とか、飯田味のように各地で販売していき、五平餅のサーティワンなども考えられます。

そして、3つの圏域が一緒になって、東京のデパートなどにもパックにして販売・出店できるのではないかと、家の1軒2軒も立つのではないかとという意見で盛り上がりました。今あるものを売りながら、道の駅にも出店し、食べてもらう。そのように地縁店は実利がある特徴的なプロジェクトにしていくべきだとなりました。

後日、この話をもう少し詰めるためのプロジェクト会議を開催しようということになりました。地縁店展開は、祭り五平の特化した形で進めていくことで一致しました。祭り五平の商標登録している伊東さんにも祭り五平の名前を使うことは了解していただきました。

- ② 三遠南信「祭り街道」連携プロジェクト
報告者：ファシリテーター 水島加寿代
（NPO 法人三遠南信アミ）



祭り街道からスタートした祭りの動きは、これから面にしていき、三遠南信エリアとしてしっかりとPRしていくことになりました。

これから具体的にどうしていこうかと思った時に、これから人がいなくなる、お金もな

い中で、どうやって続けていくかが課題であります。伝統芸能・民俗芸能に興味を持つ人の絶対数は少ないかもしれませんが、確実に全国各地に興味を持つ人いるので、その人たちに発信していく。SNSは若い人は使っていますが、まだ知られていないことがたくさんあります。お金をかけずに私たちは自分たちが知っている祭りを発信していけば、全国又は世界に発信していける。お金をかけずにスタートができます。実際に重要文化財に指定されたところは恵まれたところであり、指定されない本当に小さな小さなお祭りがまだまだ残っているところもあり、その土地の良さ、風習や食などを活かした祭りが存続しており、まだ発掘されていないものもあります。それも見逃してはいけないと話し合いました。文化財指定云々のお墨付きはありがたいが、自分たちが住民ネットワーク協議会としてこの祭りはいいね！すごいね！応援したい！と思える祭りを発掘・発信していこうとなりました。

たとえ情報網としてあるからと言って一緒に抱えていくものではありません。祭りにはよその人に入ってほしくない神事の部分とよその人も入って一緒に盛り上がり、踊りまわってというように分けている部分があります。それらを知って、学んで勉強することをやっていきたいと思いません。三遠南信アミの元理事長であった松田不秋先生が三遠南信を学ぶ会で各地の伝統芸能を見に連れて行きました。私たちはそれを引き継いで講座として祭りを見に行っていないので、協議会の企画などでやりたいと思っています。なにせ祭りは開催時期が重なることが多いので、相手のところに行きたいけど行けないことがあります。時期を外した時に行くであるとか、祭り街道サミットなどで情報交換する機会を企画していきたいなどの意見が出されました。

ただし、話し出したら終わってしまいまし

た。これをスタートにして、祭りをどうしていくかを第1歩第2歩と進めていきたいと話し合いました。したがって、このプロジェクトも次の集まりを企画したいとなりました。

③ 三遠南信「芸能・スポーツ街道」プロジェクト

報告者：ファシリテーター 三宅淳子
(NPO 法人奥浜名湖観光まちづくりねっと)



スポーツと芸能ということで、どうつなげるのか悩んだわけですが、まず芸能の持つ力や魅力をどう感じているか聞いてみました。スポーツと芸能は、地域を軸にして活動しているからこそ地元の人が魅力を伝えることができ、地域の良さや魅力の再発見、いろいろな気づきを得ることができます。また、芸能スポーツはわかりやすいテーマなので、顔の見える関係がつくりやすいといった話ができました。

スポーツを中心に活動している団体からは自己の可能性へのチャレンジ、自己表現ができるといった意見が出ました。課題としては、どういう魅力を発信し、どのように継承していくかが課題であります。

また、若い人の巻き込みも大きな課題です。たとえば、ジュビロ磐田では、若い人たちがボランティアで仲間と一緒に会場でごみ拾いをしています。スポーツ・芸能は、人の心を動かせるパワーがあります。その魅力を伝えながら、若い人を引きつける知恵と工夫が必要です。

さらに、具体的な問題として、新・旧の芸

術活動の情報がバラバラであることがわかりました。これを1つに集約し、情報発信していく、あるいは情報交流していくことが重要です。

芸能・スポーツをテーマとした軸となる連携プロジェクトを進めていくことで、若い人の巻き込み等がうまくいけば明日への架け橋になると思います。



■第3部 まとめ／全体

本日のプロジェクト報告と課題、グループの話し合いの中で、情報発信に課題があります、わかりやすさがキーワードになること。知ってもらうこと、学ぶことも大切であります。新しいものと古いものの情報がバラバラであることが課題である、それを1つに集約していく必要があるという意見が出されました。

その中で、祭り街道五平餅は具体的でコミュニティビジネスになっていく可能性もあり、実利のあがることをやろうというのが住民ネットワーク協議会の元々の発想であり、そんな動きにつながってきました。

■まとめ、閉会あいさつ

三遠南信住民ネットワーク協議会

副代表世話人 木下利春

住民ネットワーク協議会には、副代表世話人が2名いて、東三河と南信州といますが、東三河の世話人が体調不良で欠席なので、昨年度の代表世話人であった木下さんからまとめの挨拶がされました。

この住民セッションも2巡目に入り、やっと何をしなければいけないか、身の丈のことがわかってきました。その中で、やはり若い人たちをどう育てていくか、地域に根おろしていくか、持続性を考えるとそれが我々住民ができることで、一番大きなことであると感じました。

行政や経済界があるが、気持ちは一致しており、お金をかけず活動しているということが大切であります。重要性はお金ばかりでなく、何が大切であるかについて各地域で話し合うことが大事です。そうしないと地域の文化や歴史が埋没してしまいます。これから全国で集落が消えると言われていますが、この地域もいろいろなものを持っているだけでは力にはなりません。一人ひとりの力も大切です。

また、儲かるかどうかもポイントであるけれど、私を含め生きているうちはやるという人がいます。そんな気持ちをもった人が1人でも多くいることだと思っているので、次の世代につなげていくことが課題であります。

住民セッションが2巡・3巡して、ようやく行政からも予算付けしてくれるようになってきました。芸能・スポーツの連携でもSENAが後押ししてくれて、スポーツの交流として静岡県が予算をつけ、ジュビロが三遠南信をテーマに交流しています。飯田でもジュビロの応援もしています。そのような活動をこれからも広めていきたいと思っています。